

沼津市立病院広報誌

numa

pi

tal

ぬまぴ た

vol.27
Oct.2023



糖尿病について

糖尿病・内分泌代謝内科 部長 北川裕 医師



Profile

1995年富山医科薬科大学医学部卒業。千葉大医学部附属病院での勤務を経て1996年から沼津市立病院糖尿病内分泌代謝内科勤務。

趣味は旅行

(資格)

- ・日本糖尿病学会専門医・指導医
- ・日本内科学会認定内科医

みなさんは、糖尿病にどのようなイメージをもっていますか？

「食事制限をしないといけない」、「インスリン注射を一生、打たなければならぬ」など様々なイメージを持っていると思います。

一方で、自覚症状がないなどの理由で治療をせず、放置している方も少なくありません。

今回は、糖尿病について、糖尿病・内分泌代謝内科部長の北川医師が解説します。

Q・糖尿病とは

A・糖尿病とは、インスリンの作用不足によって、血糖値が高い病態が続く病気です。インスリンは膵臓から分泌されるホルモンで、体内で唯一、血糖値を下げる働きを持っています。

Q・糖の流れは

A・三大栄養素の一つ炭水化物の

中心はブドウ糖です。私たちが食事をすると、栄養素の一部は、ブドウ糖となって腸から吸収され、

ブドウ糖は肝臓に貯蔵されます。寝ている間など、食事をしない時間が続くときには、逆に肝臓からブドウ糖が放出されます。従ってブドウ糖は、食事をしたときも、していないときも、常に血液中を流れ、からだのあらゆる臓器や組織へ運ばれています。

Q・血糖値と尿糖の関係は

A・血糖値は、血液中のブドウ糖の濃度を表した数値です。

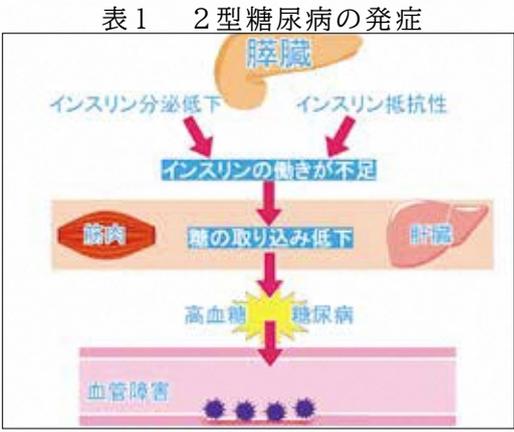
血液中の糖は、腎臓で血液から濾過される過程で水分とともに体に再吸収されますが、血糖が限界を超えると、尿糖が検出されます。一般的に、血糖値が 170mg/dl 以上になると尿に糖が排出されます。糖尿病であるかどうかの診断や重症度も血糖値によって判断します。

Q・糖尿病の種類は

A・糖尿病には、大きく分けて4種類あります。

①血糖値を制御するインスリンが全く、又はほとんど出なくなることで、より血糖値が高くなる「1型糖尿病」。

②生活習慣の乱れや加齢によってインスリンの働きが低下したり、インスリンの分泌量が減少したりすることで起こる「2型糖尿病」(表1)。



③妊娠中に一過性に血糖値が高くなる「妊娠糖尿病」。

④「その他の原因(薬剤の副作用、遺伝的な原因等)」。

糖尿病患者の90〜95%が2型糖

尿病で、次に多いのは、1型糖尿病です。

Q・糖尿病の自覚症状は

A・2型糖尿病では多くの場合は、初期の段階では自覚症状はありません。しかし、病気が進行するにつれて「口渴」、「多飲多尿」、「倦怠感」、「体重減少」などの自覚症状が現れます。

Q・早期治療の必要性は

A・糖尿病を指摘されていても自覚症状がないため、治療せず放置しておく、合併症を発生し進行する危険性があります。進行すると網膜症(最悪失明)や腎不全になります。最終的には人工透析が必要になります。また、一度合併症を発生すると完全に戻すことが困難であるため、早期治療が重要なのです。

Q・合併症を起ささないようにするには

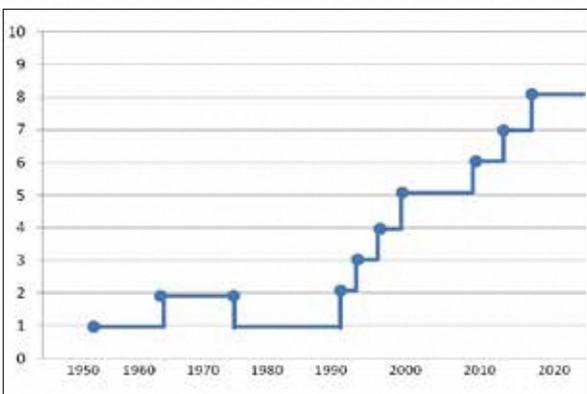
A・健康診断や糖尿病のため通院治療を受けている方は、2カ月間の血糖値を反映するHbA1c(ヘ

モグロビンエーワンシー)の測定を行うと思いますが、合併症を起さない又は進行させないようにするためには、HbA1cを7%未満にすることが重要です。

Q・糖尿病の治療薬は

A・この20年の間に作用機序が異なる治療薬が、次々に使えるようになり、糖尿病の治療がしやすくなりました(表2)。

表2 経口糖尿病治療薬数の変化



従来は、内服薬だけでは血糖コントロールを十分に改善できず、インスリン製剤が必要だったケースが、内服薬でも治療が可能に

なった例が多数あります。また、インスリン製剤も改良され、以前よりも使いやすくなり、1型・2型糖尿病ともに多くの患者さんに使用できるようになりました。

Q・今後の課題は

A・新しい薬剤によって糖尿病は治療しやすくなりましたが、課題もあります。

それは、新しい薬剤は高額で、1錠で数百円するものもあることです。そのため、継続して治療をしていくことは、患者さんにとって経済的な負担がかかります。また、高齢者の場合には、インスリン注射を自宅で継続することが難しい場合があります。

今後はインスリン注射をどこまでサポートできるかが課題となるでしょう。

読者にメッセージを

糖尿病は、初期には自覚症状が少なく、糖尿病であることに気が付かずに過ごしてしまいがちです。そのため、定期的に健康診断を受けます。

PICK
UP

新型X線透視装置を導入しました！

おね
がい

院内の感染対策を
強化しています！



【骨密度検査とは】

骨の中に含まれるカルシウムやリンなど、骨を構成する「ミネラル」が、どの程度あるかを測定する検査です。ミネラルが不足すると骨がもろくなり、骨が折れやすくなります。骨密度を測定することで骨量の減少を早期に発見でき、骨粗しょう症の適切な予防や治療を行うことが可能になります。

当院では、バリウム検査などで使用されるX線透視装置を使い、骨密度測定もできる装置を導入しました。この装置はDEXA法（2種類の異なるエネルギーのX線を照射し、骨密度を測定する方法）を用いて、腰の骨（腰椎）と太もものつけ根（大腿骨近位部）の2部位を撮影し骨密度を計測します。

また、DEXA法は骨密度測定の中でもっとも精度が高い測定法といわれています。

しかし、体内に金属等がある場合、骨密度の正確な測定ができなため、撮影部分に体内金属（脊椎固定具、人工股関節など）がある場合は、事前にお申し出ください。

来院するときは、必ずマスクを着用してください。入口では、入館前に体温の測定と症状の確認を行い、手指衛生をお願いしています。感染防止対策にご理解・ご協力をお願いします。



今号の
表紙

臨床検査科のスタッフ



PICK
UP

認知症サポートチームを紹介します！



当院の「認知症サポートチーム」は、脳神経内科・姉崎医師を中心に、認知症看護認定看護師、認知症リクナースや、薬剤師、社会福祉士などの多職種が強い結束力をもって2019年7月より活動を開始しました。

週1回、チームで病棟ラウンドとカンファレンスを行い、様々な困りごとに対応しています。当院は、急性期病院であるため、突然の入院も多く、環境の変化や身体疾患から一時的に認知症やせん妄症状の悪化がみられることがあります。そのような症状にタイムリーに介入し、症状の軽減に努めています。

さまざまな原因による生活・社会課題に対して多職種で協働・連携し、「本人の生きる世界」「出来事の背景」「抱えている思い」をご本人から聴き推察し、関わることを心がけています。



沼津市立病院

NUMAZU CITY HOSPITAL

— 市民のために 共に歩む病院 —

沼津市立病院広報誌「ぬまピタル vol.27」
発行：広報委員会・病院管理課企画係
ぬまピタルバックナンバーはこちら →



〒410-0302 沼津市東椎路字春ノ木 550 番地
Tel: 055-924-5100 (内線 2370)

Mail: byoin-so@city.numazu.lg.jp

ホームページアドレス: <https://www.numazu-hospital.shizuoka.jp/>